広報 あしや
Garden City Ashiya

環境特集号
平成21年（2009年） 6月15日発行
■発行/ 芦屋市役所 ☎31-2121
〒659 - 8501 芦屋市精道町7番6号

■問い合わせ

ごみの収集	環境処理センター収集担当	☎22-2155
粗大ごみ受付	〃 予約センター	☎22-2166
ごみの焼却・処分・持ち込み・リサイクルパイプライン	〃 施設担当	☎32-5391
環境衛生	環境課	☎38-2050
環境保全	〃	☎38-2051

〝低炭素社会〟を目指して

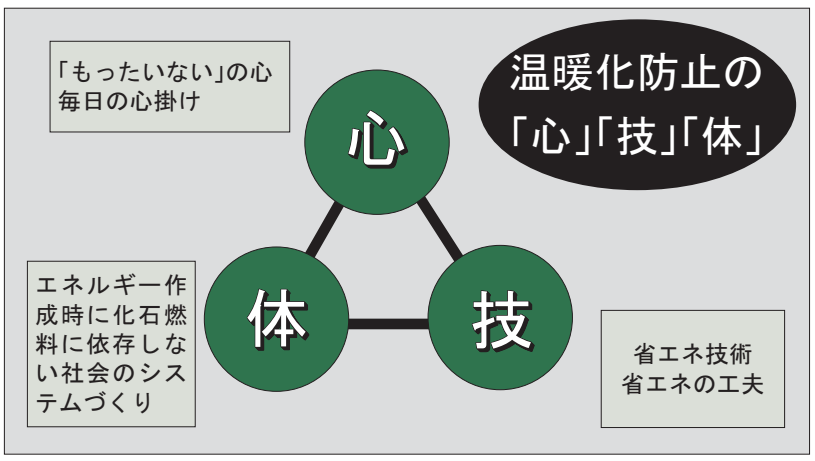
昨年の北海道洞爺湖（とうやこ）サミットでは、「世界全体の温室効果ガス濃度の安定化という目的の達成は、全主要経済国により世界全体の排出の増加を止め、〝低炭素社会〟に移行するとの共通の決意を通してのみ可能」という合意がなされました。

〝低炭素社会〟とは、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の最終的な排出量が少ない産業・生活システムを構築した「社会」のことです。

これは、二酸化炭素の排出を、地球全体が吸収できる範囲に押さえ、地球温暖化を防止することを目的としています。

平成十九年度の日本の温室効果ガス総排出量は、二酸化炭素に換算すると十三億七千四百万トンでした。

これを吸収するためには、日本の面積の約三倍の森林が必要です。また、地球全体では、現在全世界で排出されている二酸化炭素の約半分しか吸収されず、大気中にどんどん蓄積されています。これが、地球温暖化の大きな要因といわれています。



〝低炭素社会〟の実現には、「〈心〉心掛け」・「〈技〉省エネ技術」・「〈体〉社会システムの変革」が必要です。

〈体〉は、エネルギーを作る際に化石燃料に過度に依存しないで、CO_2の排出量を減らす社会のシステム作りを行うことで、たとえば、CO_2を発生させない発電技術や自然エネルギーの導入、身近なところでは〝家庭用太陽光発電システム〟の導入などがあげられます。

〈技〉は、省エネ技術を使った商品を購入・利用することなどがあげられます。ハイブリッド自動車や電気自動車も現実のものとなっています。

また、以前と比べ、エネルギー消費量を押さえた家電製品が開発されています。家電製品を購入・買い替えの際には、価格だけで決定するのではなく、省エネ技術も考慮に入れると、電気使用量も少なくてすみ、長い目で見れば、結果的にはお得になることが多いようです。

しかし、〈体〉・〈技〉だけでは、低炭素社会の実現は難しく、エネルギーや製品を使う際の〈心〉も、同じように重要です。

〈心〉は、毎日の心掛けや工夫・ライフスタイルの見直しです。例えば、せっかく省エネ製品を購入しても、テレビのつけっ放しや冷蔵庫の開けっ放し、誰もいない部屋でエアコンが入っていたりすると、効果は薄れてしまいます。

近距離ならば、自動車を使わずに徒歩や自転車を利用する、マイバッグを持参し、できるだけレジ袋をもらわないようにするなど、普段からの心掛けが〈体〉と〈技〉を生かす決め手となります。一人一人、できるところから始めましょう。

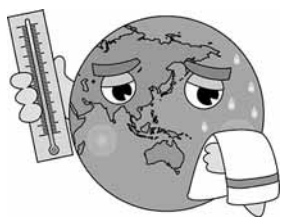
地球温暖化が進むと…

地球温暖化による台風の大型化や異常降雨、干ばつなどの異常気象が世界の各地で起こっています。

現在よりもう少し平均気温が上がると、冬の降雪量の減少による水不足や、イネや農作物の開花時期が早まったり、受粉障害がおきたりなど、国内での食糧生産に大きな影響が表れるとの指摘がされています。また、回遊魚のルートが変わることにより、漁業への影響も心配されます。

熱中症の増加や、熱帯・亜熱帯特有の病気の流行なども、心配されています。

国立環境研究所などは、対策を何も講じないと、豪雨が増えて、今世紀末までに洪水の年間被害額が八・七兆円に達するほか、ブナ林は七割減ると推定し、海面上昇で砂浜がほぼ半減するとの見方も示しています。



〈心〉・〈技〉・〈体〉の３つが揃えば、温暖化の原因となるCO_2を減らせます。

未来の地球と子どもたちのために、私たち１人１人、身近なところ・できることから、みんなで始めていきましょう。

家庭用太陽光発電システムの補助

詳細は、太陽光発電協会・太陽光発電普及拡大センターホームページへ。

HP http://www.j-pec.or.jp

出前講座の受け付け

環境問題をはじめとした、さまざまなメニューを用意して、「出前講座」を受け付けています。

申し込みは、生涯学習課（☎38-2091）へ。

主要家電製品の省エネ度比較

照明器具	白熱球を電球型蛍光ランプに取り替えると、90Wの白熱球なら、電球型蛍光ランプの22～25Wと同じ明るさです。消費電力が少なく、寿命が長いので、電気代がお得になります
エアコン	10畳用で、1995年型(1,492kWh:期間合計)に比べ、最新型は858kWhと、40%も省エネになっています。
冷蔵庫	401～450ℓ用で、1997年型の年間電力量840～940ｋWhに比べ、2007年型では450～510kWhと、大幅な省エネになっています。
テレビ	1999年型の32型ブラウン管テレビの年間消費電力量222ｋWhに比べ、2008年型の32V型液晶テレビでは141kWhと、約36%の省エネです。また、待機電力は80%も少なくなっています。

「環境省　省エネ製品買い替えナビゲーション　しんきゅうさん」より
http://shinkyusan.com/index.html

みんなで止めよう温暖化 チーム・マイナス6%

昨年度から約束期間に入った京都議定書では、日本は温室効果ガスを1990年比で６%の削減を世界に約束しています。環境省が主催する“チームマイナス６%”では、誰でもができる６つの具体的なアクションプランを提案しています。

【１】温度調節で減らそう
夏の冷房の設定温度は、28度が理想です。クール・ビズなど服装で調整すると、体感温度は２度違うと言われています。また、暖房時ももう１枚重ね着をして、設定温度を下げれば一層効果があります。

【２】水道の使い方で減らそう
蛇口をこまめに閉めたり、風呂の残り湯を洗濯や掃除・打ち水などに使ったり、シャンプー中のシャワーを止めるなど、ちょっとしたことで水の使用量は大きく変わります。

【３】自動車の使い方で減らそう
家庭からのCO_2排出量のうち、約３割が自動車などから排出されます。積極的に自転車や公共の交通機関を利用したり、エコドライブやアイドリング・ストップを心掛けましょう。

【４】商品の選び方で減らそう
近年の家電の省エネ化は、目をみはるものがあります。新しく購入したり、買い換える際には、省エネ性能もチェックしましょう。家電の購入は、賢く選んで、大切に使いましょう。

【５】買い物とゴミで減らそう
レジ袋は、国内で１年間に300億枚も使われます。スーパーなどへ行く時に、マイ・バックを持参するというのは、もう常識ですね。

【６】電気の使い方で減らそう
部屋を出るときに電気を消す、テレビのつけっ放しはしないなど、日ごろの電気の使い方のチェックや待機電力も、しっかりカットしましょう。家庭で消費される電力の約１割は、待機電力です。